

CASBEE[®]新潟 | 評価結果



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

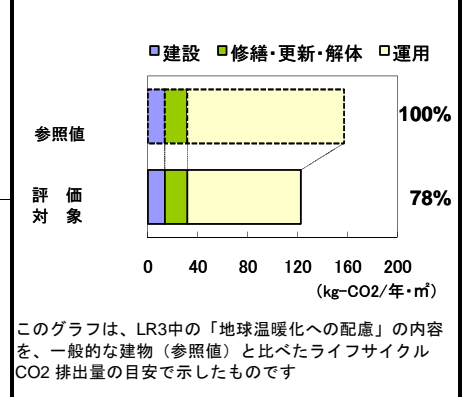
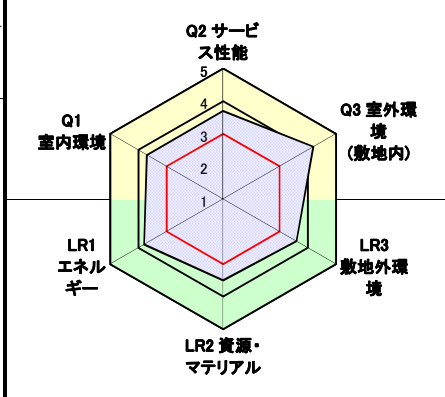
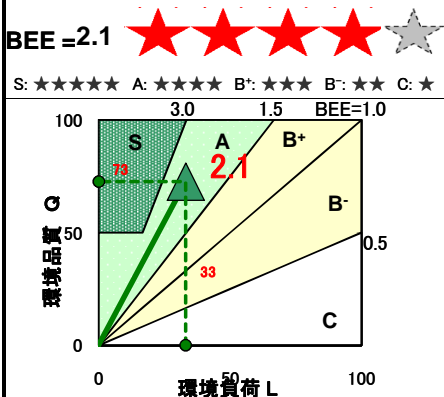
1. 建物概要					
建物名称	(仮称)新津文化会館建設工事				
建設地	秋葉区 新栄町4-35				
用途地域	第一種住居地域、建				
建物用途	集会所、				
竣工年	2013年3月 予定				
敷地面積	17,165.34 m ²				
建築面積	2,848.86 m ²				
延床面積	2,997.36 m ²				
階数	地上2F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2011年4月20日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{73}{33} = 2.1$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.6		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.5
			更新性	Q2.3.3	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.7		耐震・免震	Q2.2.1	3.8
			信頼性	Q2.2.4	3.6
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.3		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.0		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 3.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 5.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	5.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
1.長寿命化の取組:維持管理しやすい材料を使用しています。 2.地震への取組:耐震グレードⅡ類 重要度係数I=1.25を採用しています。 3.大雨への取組:指導致に添った流出抑制対策を行っています。 4.自然エネルギーの取組み:トップサイドライト等による自然採光システムを採用しています。 5.資源循環の取組み:屋根雨水を原水とする雨水利用システムを計画しています。地業工事で再生砕石を使用しています。 6.水と緑を活かす取組み:池や緑地によるバッファゾーンを設けています。 7.新潟のまちなみへの取組み:ワークショップ等を実施して、事前に利用する人の使い勝手や地域生を考慮しています。					

CASBEE[®]新潟

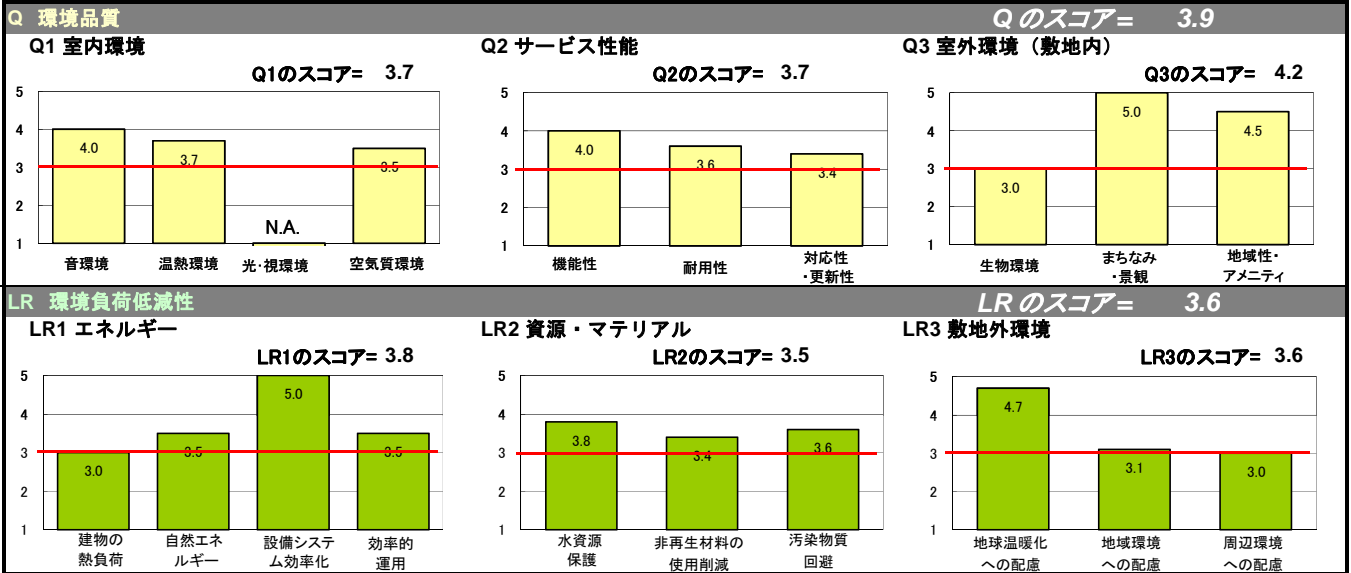
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | **2-2 大項目の評価(レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>古くから様々な形で人々の生活を育んできた里山こそが、秋葉区の「水と土」の文化であると考え、地域の風土や環境に考慮して施設全体を計画しています。隣接する住宅地や中学校への緑地や水辺の提供、車両製作所などの街の緑をつなぐなど環境整備をめざします。自然エネルギーの利用やライフサイクルコストの削減、耐久性の高い素材を選定し、建物の長寿命化をすすめます。</p>	<p>その他</p> <p>建設工事における廃棄物削減を考慮して、地下を作らず、ピットをできるだけ浅くすることで場内残土を減らしています。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>劇場部に関しては騒音に留意した設計としています。空調方式は個別空調系統(GHP)と熱源系統(空調機)を計画し、ホール客席は床吹出方式、エントランスロビーは床輻射冷暖房方式を採用しています。省エネ性の高い計画としています。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>床は清掃が容易なものを採用しています。空調のホール熱源機器は複数台設置し、個別空調系統のGHPを含めて集中設置しました。節水型器具を積極的に採用し、各ゾーン給水系統は管理バルブを設置して管理性に配慮しています。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>景観には十分配慮し、周囲の景観になじむ色使いとしています。ワークショップなどを実施し事前に使用する人の使い勝手や地域性を考慮しています。池や芝生などの緑地帯をとって建物周囲に必要なパフファゾーンを形成しています。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>ロビーは自然光利用をしています。年間熱負荷係数(PAL)は、532.6MJ/m²・年(基準値-3.2%)にて判断基準値をクリアしています。該当するCECについては判断基準値を大幅にクリアしています。CEC/AC=1.47(基準値-33.2%)、CEC/L=0.64(基準値-36.0%)、CEC/HW=1.40(基準値-17.6%)。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>内外部ともに躯体を打放しとしており、内装に関しては直接でなく、LGSなどを使ってから仕上げています。また発砲断熱材は使用していません。屋根雨水を原水とする雨水利用システムを計画しました。また節水型便器や自動水栓を計画しています。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>駐輪場の確保、荷解きスペースや車寄せへの庇の設置、駐車場の2方向出入口の確保をしています。CO₂削減に努めた計画としています。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される